

シリーズ

東久留米の学校史

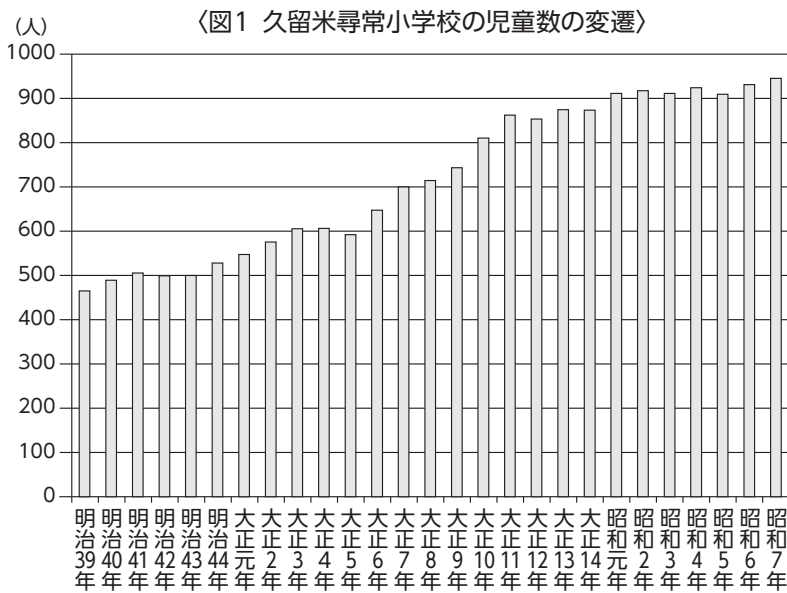
その4

新しい学校

明治39年(1906年)に村立の久留米小学校が誕生したことは、村の初等教育が一応の形を整えたことになり、明治維新後に進められた教育の普及が次第に定着してきたことを示しています。久留米小学校もその後校舎を増築し、次第に設備も整ってきましたが、大正期に入ると児童数の増加が顕著になり、施設のさらなる整備が必要となりました。

〈就学率の変遷と児童数〉

「学制発布翌年の明治6年(1873年)の就学率は全国平均28・1%と、学齢児童の約4分の1程度しか学校に通っていないのが実情でした。さらに男女間の差異も大きく、男子の39・9%に対し女子が15・1%と、女子は男子の半分以下の就学率でした。しかし、明治13年(1880年)以降の就学義務の強化もあって、就学率は上昇し、明治15年(1882年)には平均50%に達しました。さらに明治19年(1886年)に施行された「小学校令」で4年間の義務教育が明文化され、33年(1900年)の義務教育無料化が国民の教育費の負担を軽くしたこと、明治末には男子98・8%、女子97・6%、平均98・2%とほぼ100%に近い就学率となりました。



〈図1 久留米尋常小学校の児童数の変遷〉

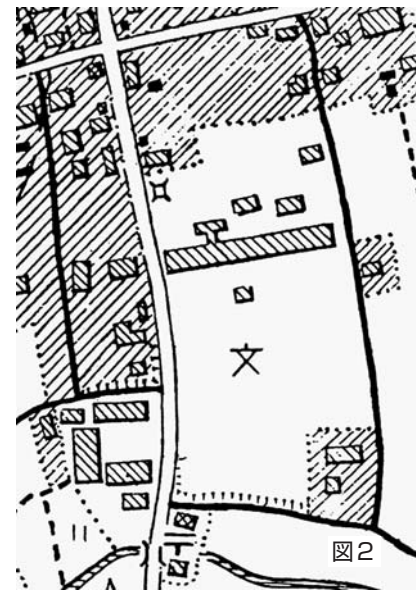


図2

→昭和18年の地図(多摩地形図・前沢一之潮刊・部分「東久留米の近代史」)には開校時の倍の900人を超えるようになりました(図1)。こつした児童数の増加に対応するため、今の第一小学校の場所に新校舎を建設することになったのです。

〈新校舎の建設〉

昭和3年(1928年)4月、前沢の久留米小学校の東側、現小金井街道を挟んだ広い場所に木造スレート葺(ぶ)き平屋建て258坪の面積をもつ新校舎を建設し、その南側の運動場を整備しました(現中央町六丁目8番)。

写真1 久留米小学校の新築校舎と校庭(昭和8年撮影)



新校舎は敷地の北部に東西に長い建物造られ、普通科教室5、特別教室2、職員室、応接室などが配置されました。当時の学校建築については、明治21年(1888年)に制定された「小学校設備標準則」により質朴堅牢が重視され、28年には文部省から「設計大要」も出されて、東西に延びた校舎の北側に片側廊下があり、4間×5間20坪(約66㎡)の教室が南側に並ぶという標準化が進み、久留米小学校もその典型的な様式で建築されました(写真1)。この場所が現在の市立第一小学校で、それまで使っていた旧校舎もそのまま活用されました。昭和10年代の地図をみるとその様子がよく分かります(図2)。道路東側の広い敷地の北部に東西に長い校舎があり、その南に広い校庭があるのは今と変わっていません。道路西側には明治時代に

「I」型に建築された旧校舎の3棟がみられます。道路に面していた2階建て仮校舎の「旧江戸屋」は昭和7年に取り壊されて地図にはなく、旧校舎も昭和23年には廃止されました。こうして、昭和3年に久留米小学校は新旧校舎をもつ新しい学校に大きく変貌したのです(続く)。

〈教育委員会審議結果のお知らせ〉

平成28年4月14日に開催した第4回定例会から、12月1日に開催した第12回定例会までに付議された議案(15件)は、すべて承認されました。議案及び報告事項の詳細については、議事録をご参照願います(議事録は市のホームページ、または市政情報コーナーでご覧いただけます)。

【お願い】非公開の議案及び報告などを除いて、教育委員会の会議は傍聴できます。お手伝い(手話通訳等)が必要な方は、事前にご連絡願います。会議は、諸事情により、直前に日程変更する場合があります。お手数をおかけしますが、傍聴される方は教育総務課庶務係 ☎470・7775にお問い合わせいただくか、または、市のホームページでご確認願います。

市立第六小学校 創立50周年を迎えました

市立第六小学校は昭和41年4月、12学級・479人の児童で、北多摩郡久留米町立久留米第六小学校として開校しました。この年には、市の人口が5万人を突破しています。第六小学校が創立された前後は、日本全体が大きく動いている時でした。昭和39年には東京オリンピックが、6年後の昭和45年には大阪万博が開催され、東久留米も町から市に変わりました。第六小学校の児童数は昭和49年4月1日現在の1011人をピークに減少し、現在(平成28年11月1日)は318人、12学級です。



全校で東久留米の野菜を使った給食を食べました

市教育委員会では、東久留米産農産物の多様性を知り、郷土愛を育んでもらうため、「くるめ産給食の日」を設けています。児童・生徒がいつも食べている給食は、学校ごとの献立になっていますが、この日は全校で同じ献立の給食を食べます(小・中学校で一部の献立は異なります)。今年度は、昨年の11月29日に実施されました。小・中学校共通の献立は、たっぷりのおろし大根を入れた「くるめスパゲッティ」、東久留米産野菜を使った「地場野菜サラダ」、幻の「柳久保小麦」を使った小松菜ケーキでした。市長、教育委員と、この日の食材を生産した農業事業者の方が第一小学校を訪問し、児童と一緒に給食を食べました。

図書館事業のご案内 語ろう! 東久留米

「語ろう! 東久留米」は、平成27年から、市民が語るオーラル・ヒストリー事業「語ろう! 東久留米」を始め、これまでに4回開催されました(第1回から第3回までのテーマと講師は表1参照)。第4回は、昨年の12月、「東久留米と農業」をテーマに、東久留米市郷土研究会と生涯学習課文化財係との共催で開催しました。まず、「農地改革と東久留米」と題し、郷土史研究会の當麻好雄氏による戦前・戦中・戦後についての講演があり、さらに、小沢文世氏が「ランブ新田から電化農村へ」について、松本誠一氏が「前沢地域の農業の変遷と今後」について、それぞれ語られました。

〈表1 語ろう! 東久留米のテーマ及び講師一覧〉

Table with 2 columns: 回数 (Number of sessions) and テーマ (講師) (Theme (Speaker)).

「教育委員会だより」第50号の発行にあたり

今から25年前の平成4年、日本人宇宙飛行士の毛利衛さんが宇宙へ出発。バルセロナオリンピックでは、当時14歳の岩崎恭子さんが水泳競技で金メダル受賞。中学生の活躍に、日本中が驚きました。さて、この年の10月に、第1号の教育委員会だよりが発行されました。紙面では第2土曜日の休業日からスタートした「学校週五日制」について、市民の皆様からの質問や意見にお答えする形で特集しています。教育委員会だよりは年2回の発行ですが、今号で50号を迎えました。ホームページ等で詳しくお知らせできない内容を中心に、これからも市民の皆様に向けて紙面づくりを指します。

